

# 全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会

第1号 2013.8.15 191-0043 東京都日野市平山5-19-11 042-594-1337 <http://shikyuukeigan.fem.jp/>

## ◎発足からこれまでの動き(ダイジェスト)

### 2013年3月25日 連絡会発足記者会見

3月25日、全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会が発足し、緊急記者会見を行いました。

NHKをはじめすべてのメインメディアで取り上げられ、その後続々と会の事務局には副反応被害に苦しむ被害者から相談や訴えの電話があり、その数は、8月現在600本以上に上っています。



朝日新聞<http://webbronza.asahi.com>より

### 4月8日 厚生労働省要請&緊急記者会見

厚生労働省大臣(代理人)に、要請書を手渡しました。被害者の現状を、被害者の保護者が直接、記者会見にて話しました。

### 4月28日子宮頸がんワクチン緊急勉強会

地方議員が議会質問等を通して、自治体でのワクチン接種のあり方を問い、同時に被害者によりそった救済/支援体制を確保するための勉強会。のべ50名の参加。その後、5~7月にかけて約70名の議員が、各議会の「一般質問」で取り上げました。また、8つの自治体議会で「ワクチン接種再検討(中止)、被害者救済を求める意見書」が可決され国会及び政府に提出されました。

### 5月10日文部科学大臣に要請&記者会見

5月10日に、下村博文文部科学大臣に被害者2組の方と一緒に、直接要請書を渡しました。被害者の状況を直接記者会見にて話しました。

その結果、6月下旬に各自治体に子宮頸がんによる長期欠席副反応被害者の調査票配布。しかし、教員が30日以上長期欠席のみを記入する不十分な調査。

### 5月20日 はたともこ議員(当時)による参議院決算委員会質疑

はたともこ前参議院議員(生活の党)の、3/28厚労委員会に引き続いての質問により、ワクチン対象のウイルスに感染するのは1%未満。予防より被害比率が高く、子宮頸がんは定期的な検診で予防可能との答弁が明確になりました。

### 5月16日ワクチン分科会副反応検討部会

代表を始め何人もの保護者・支援者が傍聴しました。接種継続決定にその場で抗議する姿が放映。緊急に抗議声明を発表し、TV朝日をはじめ多くのメディアに取り上げられました。

### 6月 都内病院にて、同時受診

子どもたちの交流の輪ができました。当会に届いた被害報告を、検討部会の配付資料として厚生労働省に提出していきます。



6/14部会終了後に緊急取材に応じる代表 事務局長

### 6月14日ワクチン分科会副反応検討部会

接種の積極的勧奨は中止!との結論。その場で緊急記者会見は、NHKをはじめ多くのメディアが報道しました。しかし、これで終わりではありません。次の検討部会で、再開とならぬよう声を届け続ける必要があります。治療法解明・被害者救済もこれからです。

## 日本での積極的勧奨中止、 世界で衝撃！

グラクソスミス社(サーバリックス製造元)、メルク社(ガーダシル製造元)はともに**大打撃と発表**。

池田事務局長は、子宮頸癌ワクチン(HPV)被害を世界でいち早く報道喚起した世界的組織のSaneVaxInc.Morma Erickson米会長、Freda Birrell英事務局長と情報交換をしています。

Mormaさんは、半年で認可されたアメリカでのガーダシル治験の不適切さを訴えています。

### Morma Ericksonさんからのメール

In our opinion, the only reason no safety concerns have been detected is simply because the FDA and CDC in the United States and the EMA in Europe are ignoring the safety concerns which exist. They are simply looking to support increased uptake of HPV vaccines no matter what the cost in human suffering.

私どもの見解としては、安全に問題ないという指摘がなされてきた唯一の理由は、米国におけるthe FDA及びCDC、そしてヨーロッパにおけるthe EMAが、実際には存在している安全性に問題があることを無視しているというだけのことです。

Fredaさんは、日本の勧奨中止や添付文書等を国会議員に提出。母親たちが被害を伝えることで英国会内の議論を喚起しようとしています。

### Freda Birrellさんからのメール

Cervarix was first introduced into the UK in September 2008 and that is when I became actively involved. Many young girls started to develop serious illnesses following vaccination - paralysis, ME/chronic fatigue syndrome, juvenile rheumatoid arthritis, autoimmune encephalitis - to name but a few.

サーバリックスが最初に英国に導入されたのは2008年9月のことで、丁度その頃、私もこの問題に深くかかわるようになりました。そして、多くの若い少女たちがワクチン接種後に深刻な病状を示し始めたのです。麻痺、ME/慢性疲労症候群、若年性リウマチ性関節炎、自己免疫脳炎。ほんの少し例を挙げただけでもこんな調子です。(池田としゃfacebookをご参照ください)

## 医薬品副作用被害救済制度の申請

HPV(子宮頸がん)予防ワクチンが、任意接種の時期の補償は、PMDA(医薬品医療機器総合機構)による救済制度によるとされています。この制度は、病院 診療所で処方されたり、薬局で購入した薬を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により、入院治療が必要な程度の疾病や日常生活が著しく制限される程度の障害などの健康被害について救済するものです。

給付健康被害を受けたご本人またはその遺族が直接、PMDA(医薬品医療機器総合機構)に対して行います。その際に、医師の診断書や投薬証明書、受診証明書などが必要となります。現在、HPVワクチン副反応被害者で救済申請した方は23人、うち13名の方に給付が決定されました。

## ワクチン接種中止を求める署名 始めました。

厚生労働大臣宛

☆ネット署名→厚生労働省(厚生労働大臣宛):  
子宮頸がんワクチンの接種中止を!!!

☆紙の署名→ <http://tinyurl.com/kcjl3b>

第1次々切9月末。ご協力ください。

第3回副反応検討部会に提出予定です。

## 副反応被害者の声

◎みかりんのささやき～子宮頸がんワクチン被害のブログ～

<http://ameblo.jp/3fujiko/>

◎子宮頸がんワクチン副作用 闘病記

<http://ameblo.jp/toi-toi-toi777/>

◎HPVワクチン被害者本人報告書

<http://ikedatoshie.com/honninhoukoku.pdf>

## 「子宮頸がんワクチンの真実」 DVDまもなく完成。

当会代表のインタビュー、被害実態、わかりやすい解説によって、子宮頸がんワクチンの問題点が網羅された20分間の映像です。学校や周辺の方への理解を得るためにご活用ください。予約受付中。価格未定。

## 子宮頸がんワクチン被害者連絡会

HPVワクチンは、2009年12月に承認。任意接種でも自治体補助がだされ、推定328万人が接種、2013年3月までに1968人の副反応被害が報告されています。

私たちは、HPVワクチン接種の問題を社会に提起し、HPVワクチン被害者の救済を求め、被害者の拡大を防ぐため集った被害者家族と支援者(現在は多くが地方議員)です。これからも、HPVワクチンの接種中止と被害者救済を求めて活動していきます。



[http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai\\_camp/general\\_1.html](http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/general_1.html)